



JSME 北陸信越支部ニュース

Hokuriku-Shinetsu Branch NEWSLETTER

日本機械学会北陸信越支部ニュースレター No.5 June 2002



連携の始まり——学会

第39期支部長

長谷川 富市 (新潟大学工学部)

今から30年程前は、国立大学が特定企業と共同研究を行うことは悪しきことである、といった風潮が強かったように思う。これに対し、是非はさておきとして、昨今の産学官連携の重要性・必要性を支持する当事者を含んだ世間の論調の方向性は驚く程である。この背景には、日本の産業が生き残るために技術の変革を基にした高度化が不可欠であること、大学は法人化に伴って外部資金の大幅な導入が必要であること、という、産業界・大学側の両者が互いに相手を必要としている事情がある。官の立場にある政府や自治体も産学官連携に関する施策を打ち出していて、例えば、総合科学技術会議の提言に基づくライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料分野への予算の重点配分と産学官の協力態勢作り、TLOやベンチャー設立に向けた支援策等が実行されている。このように最近になって急に産学官連携の態勢作りが盛んになってきたが、しかし、連携の場は昔からあったのである。学会がそれにあたる。逆の言い方をすれば、学会

が産学官連携の機能を十分果たしてこなかったから、今かまびすしくその必要性が叫ばれているといっても過言ではない。

今後、日本は勤勉、器用だけに頼った物作りを続けていってはいられない。創意工夫それも学術的に裏打ちされた創意工夫が根底になくしてはならない。そのために、産業界は大学をもっと利用すべきであるし、大学も納税者である国民の期待に応え積極的に外界に撃って出るべきである。最近の大学は共同研究センターへのでこ入れ、リエゾンオフィス、TLO等の設置によってこれに応えようとしているが、現実には、予算等の制約でままならない。産業界からは、大学は敷居が高い、大学の先生は取付き難い、等の非難めいた声を良く聞く。このように産学官の連携は必ずしも上手く行っていないけれども、しかし、連携といっても基は人間関係。互いに知り合いになることが第一歩である。大学の先生とて、付き合い合えば学識は別として普通の人である場合が多い。そして、そう思うところから連携は始まる。学会は、このためのチャンスを与える格好の場ではないかと思う。企業の人や学会の幹事や役員になると否応なしに大学の先生方と共同作業をせざるを得ない。役員にならなくても、講演会、発表会、懇親会で産学官の人達が顔を付き合わせる機会はたくさんある。話し合いの深まりのなかから、産学官の立場・考え方の違いと協働可能な範囲が見えてくる。このためには、とにかく、学会行事に参加してみることです。

各県からのニュース

福井県

2001年度日本機械学会年次大会の報告

副実行委員長 (幹事)
岩井 善郎 (福井大学工学部)

2001年度日本機械学会年次大会が、8月28日(火)から30日(木)までの3日間、福井大学、福井工業大学及びフェニックスプラザにおいて開催されました。大都市圏以外で、しかも3会場での分散開催など実施前の様々な心配をよそに、約2400人の参加を得て、講演発表1305件、基調講演23件、先端技術フォーラム19件、ワークショップ27件、新技術開発リポート4件、新企画行事4件、国際シンポジウム1件を、成功裡に終えることができました。これもひとえに、年次大会を各方面からご支援いただいた北陸信越支部会員の皆様のおかげと心から感謝しています。その報告は、日本機械学会誌2001年10月号 (Vol.104, No.995, 713-714) に掲載されています。また、年次大会の開催決定から実施までの経過は、山本富士夫実行委員長が昨年の支部ニュースレター (No.4 June 2001) に書いておられます。本稿では、年次大会の終了から約1年

近くが経過し、今では懐かしい記憶となった出来事についてご報告したいと思います。

講演申し込みの出足が悪く、締切りを4月末に延長したこともあって、前回の名古屋大会以上の講演件数が集まりました。その喜びもつかの間、プログラム作成の大変さを実感させられることとなりました。一般講演と特別企画の約1700件を3会場へ割り振ることは、シャトルバスによる移動時間の考慮、一人で数役(講演者と座長やオーガナイザーなど)を掛け持ちの方々が全ての役目をこなせるための配慮など、想像を絶する難作業でした。竹内正紀副実行委員長はじめプログラム担当の若い先生方の昼夜にわたる努力によってプログラム編成が終わり、これをホームページ上に掲載することができました。それにしても、講演申し込みの約束事が守られない現実には唖然としたのも事実です。プログラム編成のノウハウは、竹内副委員長から、次回の東京大学や2年後の徳島大学の担当者に引き継がれました。

次の課題は、真夏の大会に不可欠なエアコン完備の教室の確保と今回から始まったプロジェクターによる発表の機材調達でした。福井大学におけるエアコンの設置は、施設課の努力

によって大会直前に完備しました。また、プロジェクターは、学内と近隣の大学や高専などにある可能な限りの台数をお借りし、不足分は福井大学の教務課と機械工学科や各研究室で新規に購入してもらい、何とか約50台を集めることができました。大会前々日に、講演室担当のアルバイト学生に機種ごとに操作講習と予行演習を行って本番となりました。大会期間中は、パソコンとのミスマッチや誤操作によるトラブルもほとんど無く、緊急事態に備えて待機していた会場担当係は開店休業状態で、はっとしました。

29日の午後には、福井工業大学において日本機械学会で初めてのThe Asian T.O.P.(Technical Organization Presidents) Panel が開催されました。小林敏雄会長はじめ、中国機械工程学会会長、大韓機械学会会長、インドネシア工学会会長が、各国のエネルギー、環境、経済の現状と今後の取り組みを紹介されました。このシンポジウムに先だって、福井大学事務局会議室にて、アジアの技術頭脳集団の連携を強化しようと、アジア機械系学会会長会の発足会議が開催されました。今後、Eメールニュースの発信や国際シンポジウムなどを通じ、各国の研究情報の共有や交換を図ることが決議されました。これは、国際化の流れの中で、世界の技術情報が英語圏にのみ込まれつつある現状を打破しようと、日本機械学会がアジア各国の機械系学会に呼びかけて実現したものです。その第1回のメールが、平成14年2月15日に学会事務局から各会員に配信されました。このようなメモリアルな会議が福井で開催されたことは、大変名誉なことと思っています。

今回の年次大会では、地域に貢献する機械学会を目指して、いくつかの市民対象行事を実施しました。特別講演として、産業技術総合研究所 吉川弘之理事長による「これからの科学技術研究」、市民フォーラムとして「中等教育における理科・技術科教育(2001)」、「日本の技術教育・工業教育を考える」、また、産官学フォーラム「産官学連携と地域産業

おこし」がありました。産官学フォーラムでは、原利昭新潟大学地域共同研究センター長から「産・官・学の連携で地域産業の何がどのように変わったか 一三条・燕等中小企業集積地における実情と新しい流れ」、また、菊池三郎核燃料サイクル開発機構理事から「原子力技術開発と地域産業との連携」といった北陸信越地区に関連する基調講演を基に、地域に対する機械工学の関わりが活発に討論されました。これらの年次大会に関するニュースは、連日地元の新聞とテレビ、ラジオで取り上げられ、機械工学と機械学会の存在を一般市民に深くアピールできたことは大変うれしい成果でした。



(産官学フォーラム)

筆者自身は、大会期間中、大会本部で年次大会全体の円滑な進行と参加者数や講演論文の売上高に気をもむ毎日でしたが、実行委員やアルバイト学生諸君の尽力によって、大きなトラブルも無く無事大会終了となりました。また、収支決算も予想以上の黒字となりました。その結果、北陸信越支部に211万円の還付金をもたらすことができ、今後の支部活動に多少とも貢献できることは、年次大会の成功に対する祝福の言葉と共に大きな喜びとなりました。

最後に重ねて、2001年度年次大会にご支援いただきました支部会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

石川県

澁谷工業の事業紹介

中 俊明 (澁谷工業株)

シブヤは創業以来70年の間、一貫してボトリング工場の合理化・省力化に務めてきました。例えば製品の高品質化ニーズに応える無菌充填技術やGMP対応技術の確立、又包装形態の多様化に対応するロボット包装ラインの開発などびん詰・包装ラインの充実を図ってきました。更に近年では、レーザを応用した各種のレーザ機器やエレクトロニクス時代を担う半導体製造装置、大切な命を守る医療機器、自然環境を守る環境設備システムの開発など、常に時代のニーズを先取りする共に高品質な物造りを目指してきました。ここで少し詳細にその事業内容をご紹介します。

1. パッケージングプラント事業：基本的には四つの柱から成っております。

ボトリングシステム製品；パッケージングシステム製品；医薬品製造システム製品；エンジニアリング

2. メカトロ事業：基本的には三つの柱から成っております。切断・溶接加工・レーザ関連システム製品；半導体製造

システム製品；医療機器製品

3. 環境設備システム製品

有機性廃棄物発酵処理システム；廃液処理システム；PET ボトル減容機があります。

4. 洗浄設備システム製品

マルチ洗浄機；熱水・気流ジェット洗浄機；洗車機があります。

私は入社以来一貫してボトリングシステムの開発・設計に携わってきました。その間色々なプロジェクトにも参加し、毎分1000本を超える高速化対応・無菌充填に代表される高品質化対応・製品替えの迅速化対応等を実現してきました。振り返ってみるとその原動力は一つはその都度プロジェクトを編成するといった非常に柔軟な組織体制、所謂アメーバ組織体制で臨めたこと、もう一つは先輩諸氏が培った“シブヤ魂”つまりどんな状況でも諦めず全員一丸となって問題をブレークスルーしようとするチャレンジ精神ではなかったでしょうか。

“シブヤ”魂と技術革新、シブヤはいつも明日の創造を目指し皆様と共に歩みたいと考えています。

ホームページアドレスは<http://www.shibuya.co.jp/>です。

富山県

学会活性化の方策は在るのか

伊藤 紀男 (富山大学工学部)

“失われた10年”という言葉は、90年代の日本を象徴する言葉となってしまった。バブル崩壊とそれに伴う不良債権の処理問題が、これほど長期にわたって日本経済に暗い影を落とすとは考えられていなかった。その背景には、これまでの裏付けのない楽観主義的な経済政策や無責任な問題の先送りという日本独特の解決手法があった。さらに、日本の社会全体として、国際的な政治、経済の環境変化への対応の無力さや現状を打開しようとする活力の欠如もあった。こうして日本の産業競争力は国際的に低下し、未だ日本経済は低迷し、日本人の誇りさえも失わせようとしている。正に日本の危機的状態と言えるのではないだろうか。

日本の製造業における人員の余剰感、不況という社会不安に一層拍車をかけている。資源の乏しい日本では、限られた資源・材料に付加価値を付与することによって、幅広いピラミッド形雇用形態をとる製造業の活性化を図り、日本再生へのプロローグとしなければならない。日本の技術力や競争力が再び右肩上がりに転じるには、これからの時代を担う若い優秀な技術者の輩出が不可欠であり、その基本には、JABEE (日本技術者教育認定機構) を念頭においた大学の教育システム、研究システムの改革と産学官の橋渡し (情報交換の場) を担う学会の役割が大きくクローズアップされるであろう。

さて、こうした社会情勢の中で、この1年間、日本機械学会北陸信越支部の富山県幹事として、学会活動の一旦を担わ

せていただいた。その間、いろいろな面で学会の在り方について考えてきた。先ず、学会や学会支部は地域社会、国内、さらには国際的に如何にして学会としての使命を果たし得るのか、貢献できるのかということである。本県も厳しい経済情勢の中で、有力賛助会員や個人会員の退会、新規加入会員の低迷など深刻な問題を抱えている。このことは、直接的に学会の財政を圧迫し、学会活動、行事の運営に支障を来すことになる。日本経済と同様に“悪循環スパイラル”を描き始めているのである。学会は、単なる大学や企業の研究者、技術者の集団ではなく、社会に対して学問成果や研究成果、技術成果を情報として伝えるサービス機関なのである。特に、日本機械学会は規模が大きく、研究分野も多岐にわたるため、学会は“巨人”の体を成し、中小企業にとっては近づき難い存在となっているのではないだろうか。そのことが、逆に会員の閉鎖的な自己満足とサービス機関としての使命を忘れさせ、形骸化した無味乾燥な集団に成り下がってはいないだろうか。日本の危機的状況の今こそ、原点に立ち返り、社会に対するサービス精神を発揮する集団に変貌しなければならぬ。

本来、日本機械学会は学問・技術情報の巨大な宝庫である。大小の企業、学官を問わず、この巨大な宝の山から、自らが探し求める小さな宝を見つけ出すことができる場なのである。学会がそのような真の役割を担うことこそが、厳しい国際競争社会で、日本が復活できる道であり、学会の活性化の近道なのではないだろうか。



新潟県

ますます進む新潟県の産官学連携

原 利昭 (新潟大学工学部)

企業倒産、リストラ、医療費負担割合の改訂など、厳しい世相を反映する文言がマスメディアに連日登場し、世の中の不安をより一層煽り立てている様な雰囲気の中で、大学も企業も同じように生き残りを掛けて大変厳しい時期を迎えているが、それでも企業から見ると、大学は甘く見えることは間違いないであろう。

しかし、苦しむ者同士であっても互いに連携し、更に自治体などの“官”がそこに加わることにより、“社会の活性化”と言う共通の目標に向かって挑戦する方が極めて合理的である。筆者は新潟大学地域共同研究センター長として、新潟県を中心とする地域企業と幅広く関わりを持って来たが、最近の産官学連携の変わり様には些か驚いている。即ち、数年前には“産官学の連携なんて上手く行く筈がない”と考えられていたが、今では質量共に充実する方向に向かっている。例えば、自治体等の補助金を利用した産官学共同研究プロジェクトでは、“学”が主導しないとなかなか進まなかった状況も、現在では、殆どの場合、納得の行く成果が得られ、成功

事例も着実に増えている。

人口が50万を超えた新潟市は80万都市を目指し、ワールドカップ開催を機に日本海側の玄関として今以上の国際化を見据えた事業展開を行っている。商業が中心の新潟市にあって新産業を産み出すための産官学連携が急速に進められている。

一方、全国的にも有名な三条・燕地区を中心とする中小企業大規模集積地でも企業意識は大きく変わってはいるが、特許侵害やPL法抵触する訴訟に巻き込まれる企業も少なくない。加えて、地場産製品の落ち込みによる自信喪失、地場企業らしさの消失、重点分野への対応不足、蓄積資源の活用と企業間リンケージに対する準備不足、開発型企業になりきれない等の状況が見られ、これらを劇的に変える必要があった。そこで、地元財界の強い要望により、大学の特許を活用するための組織である新潟TLOが平成13年11月に設立された。これにより、日本海側初のTLOが有する機能と大学が有するリエゾン機能、知的資源、人材等の効果的活用と産学連携の一層の進展が実現しつつある。他方、官と学の連携も、ここ新潟ではユニークさを持ち合わせている。例えば、新潟県が造成した工業団地の販売促進に大学が積極的に支援・関与し、企業進出を促している点などがその一つである。この様に、新潟県ではますます産官学の連携は進展し、地域社会の活性化が図られている。

長野県

HD国際シンポジウム紹介

清沢 芳秀 (株)ハーモニック・ドライブ・システムズ)

平成13年11月20日、21日、長野県松本市ホテルブエナビスタにおいて、ハーモニックドライブ (HD) 国際シンポジウム2001が開催されました。このシンポジウムは、(株)ハーモニック・ドライブ・システムズ社が、創立30周年の記念行事の一環として、産業界、大学等で研究・開発に携わる技術者・研究者の方々とハーモニックドライブ®を含むサーボメカニズムにかかわる応用例や今後の動向についての技術交流の場とし、益々高性能が要求されている当分野の発展に寄与することを目的に企画され、日本機械学会北陸信越支部の協賛をいただき開催されました。



(西澤先生講演)



(会場)

総合テーマとしてはハーモニックドライブに限定せず、広く「モーションコントロール」を取り上げ、主に次のセッションが行われました。

- ①ハーモニックドライブ社研究開発の発表
- ②ハーモニックドライブ社のユーザーによるアプリケーションの講演
- ③国内外の著名な研究者・技術者によるモーションコントロール関連技術の講演
- ④記念講演

参加者数は2日間のべ353名、発表、講演数は計18件、記念講演は岩手県立大学 大学長 西澤潤一先生の「研究開発の実態 - 光通信を例として -」が講演されました。

シンポジウムのキーワードである「モーションコントロール」は一見、狭い範囲の世界を思い浮かべがちですが、今回のシンポジウムでは、遠く宇宙の火星探査機や人工衛星の話題から地上のヒューマノイドロボット、マイクロマシン、地下深部の石油掘削機の話題、技術的には計測の話題からロボットの教育、心理学的アプローチ、超高速度画像認識の話題と幅広い内容で、特に研究者・技術者にとっては、刺激的な2日間でした。

研究会紹介

産業応用メカトロニクス技術研究会

主査 中嶋 新一 (新潟工科大学)

北陸信越地区は機械加工、組立型の企業が多く、メカトロニクス技術を駆使した高度な自動化ラインも多く開発されています。一方で、大学等の研究教育機関では制御、ロボットなどのメカトロニクスに関連した分野の研究が積極的に進められています。

このような状況の中で、本研究会は産業応用をひとつのキーワードとしたメカトロニクス技術に関する調査研究、意見交換を行う会として、1999年に発足しました。当初、大学を中心とした24人でスタートした会員は、多数の企業技術者の参加も得て、約70名となっています。

発足以来、ほぼ年2回のペースで、講演会と企業見学会を開催してきました。また、本会独自の活動に加えて、ロボメカ部門の第3技術委員会や関連した学協会との共催行事も積極的に進めております。また、毎年開かれる支部総会講演会では、本研究会が中心となってロボティクス、メカトロニクス関連のオーガナイズド・セッションを企画しております。

北陸信越地区は広域にわたっているため、多数の会員の皆さんに集まっていたことが難しいのですが、インターネットを活用した情報交換の場も提供していきたいと考えております。会の案内や今までの活動等については下記のホームページをご覧ください。

<http://kappa.shinshu-u.ac.jp/melia/>

今後とも、この地区のメカトロニクス技術の向上をめざして新しい企画を考えていきたいと思っております。この分野に興味のある皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

熱流体解析CAE研究会

松田 安弘 (信州大学工学部)

1. 内容・目的:

企業等での開発・設計現場における各種の熱流体問題をコンピュータにより解析する技術の情報交換と会員相互の啓発を目的として平成2年4月に発足

(詳細は<http://www.csl.shinshu-u.ac.jp/>)

最近では各企業等で利用しつつある汎用熱流体解析システム関連の技術講演会と会員による話題提供の2本立てで実施中。

(問合せ先: 松田 (matsuda@gipwc.shinshu-u.ac.jp) まで)

2. 開催時期・場所:

年2・3回、信州大学地域共同研究センター (長野県長野市) にて

3. 最近開催の研究会:

第24回 (11/27/01)

「熱流体解析システム: PHOENICS」

CHAM社 (東京支店)

「バルブ製造業におけるCAEの適用事例」

株式会社 キッツ

4. 現在の参加企業等 (約30名, 50音順):

浅間技研工業(株), 石川島芝浦機械(株), オリオン機械(株)キッツ, (株)三協精機製作所, 山洋電気(株), 新光電気工業(株), (株)炭平製作所, セイコーエプソン(株), (株)田中製作所, 東洋ラジエーター(株), 長野県工業試験場, 長野県精密工業試験場, 長野県短期大学, 新潟ウオシントン(株), 日信工業(株), (株)P F U, (株)富士通長野システムエンジニアリング, (株)前田鉄工所, 松本昭電エンジニアリング(株) 吉川建設(株), 信州大学 以上

第6回北陸信越支部賞

支部賞選考委員長 川崎 信明 (株)小松製作所)

第6回北陸信越支部賞の表彰が、平成14年3月8日に金沢工業大学で開催の第39期北陸信越支部総会で行われ、下記受賞者に賞状と記念品が贈呈されました。なお今回は共同受賞の方が多数おられましたが、紙面の都合で代表者の方のみ記載させていただきます。

●技術賞 : 2件

①代表: 石川県工業試験場: 前川満良氏他4名

技術名: 視覚障害者用携帯型色認識装置の開発

<受賞理由>: 独自の自己校正機能で測色精度を大幅に向上し視覚障害者へ音声で色を伝えるという社会的貢献度大。

②代表: (株)P F U: 守田正機氏他4名

技術名: 高精細・高機能カラーイメージスキャナ-940の開発

<受賞理由>: 安価な高精度の光学解像機構を独自に開発し、デジタル画像データの生産性向上に貢献した。

●貢献賞 : 2件

①中島孝慈氏 (富山工業高等専門学校)

<受賞理由>: 支部学生会活動を指導し学生会員の増強に努め、さらに産学連携に積極的に取り組んだ功績等。

②代表: 立花規良氏 (福井大学工学部) 他3名

<受賞理由>: 2001年度年次大会を福井大学と福井工業大学の2校で共同実施し成功させた功績。

●学生賞 学生会活動の部 : 1件

代表: 佐野巖根君 (福井工業高等専門学校) 他4名

<受賞理由> 「メカライフの世界展」でモノ造り体験を通じて参加者に機械工学への興味を募らせた。

●学生賞 学術講演発表の部 : 2件

① 河合慎弥君 (福井大学大学院)

講演題目: 潤滑中における金属同士の組合せでの摩擦帯電電圧の測定。

② 横塚卓志君 (新潟大学大学院)

講演題目: 3次元CADを用いたテーパエンドミルによる切削機構の解析 (コーナ部における過渡現象とループ経路による加工について)。

学生賞 卒業研究発表の部 : 2件

① Noor Effendy Osman君 (新潟大学工学部)

講演題目: 熱転写プリンタを利用した印刷紙の熱特性評価。

② 丹野義剛君 (金沢工業大学)

講演題目: 超音波振動を利用したグライシング技術の開発。



(技術賞)



(貢献賞)

メカライフの世界展

長野工業高等専門学校 (10月20,21日開催)

テーマ：機械工学に触れてみよう

「メカライフの世界展」は、長野高専の最大のイベントである工嶺祭(学園祭)に合わせて開催しました。特にゲーム性を取り入れた企画では、多くの小中学生が実際に見て、触れて、動かすと、長い時間ゲームに夢中になるなど、好評でした。(来場者：約400名)



石川工業高等専門学校 (11月3,4日開催)

テーマ：メカニズムへの招待と体験コーナー

ビー玉スターリングエンジンの実演、マルチメカキットによるリンク機構の解説、ソーラーキットの組み立てによるその発電原理の解説、ピンポン玉発射装置の試作と的当てゲームを行い、マシンを操作する喜びとゲームを楽しんでいただきました。(来場者：約50名)

長岡技術科学大学 (9月22,23日開催)

テーマ：渦のおりなす不思議な現象を体験しよう

渦動現象に関するポスターの展示、流れの可視化デモンストラーション、および渦動体験コーナーの3つのコーナーを準備し、「見てさわる」展示会を目指しました。渦動による実際の事故事例を紹介し、風洞を用いてカルマン渦の励振力を体験してもらうことにより、見えない渦の力を実感してもらいました。(来場者：約30名)

富山大学 (9月8日開催)

テーマ：小さな、(小さな)² 移動機械を目指して

オープンキャンパス「夢大学」内の一角で行っていたので、多くの人々にご来場いただきました。微小移動ロボットを通して、小さな移動ロボットを製作すること、また、環境により移動のための構造が異なること、移動の方法にも多々あることを説明し、参加者は納得していかれました。

(来場者：約70名)

福井工業高等専門学校 (10月19,20,21日開催)

テーマ：光るアンテナ製作&ロボット実演

もの作りにおける感動を味わって頂く一環として「光るアンテナ製作」を、さらに数種類のロボットを楽しんで頂く「ロボット体験」の2種を企画しました。光るアンテナは高輝度LED、ショットキーダイオード、コンデンサと数cmのアンテナ線をはんだ付けするだけで実現でき、自分の携帯電話で発光したときの満足感に満ちた笑顔は印象的でした。

(来場者：多数名)

第39回全国学生研修会

北陸信越学生会からの参加者

藤田 敏範(金沢工業大学) 大日向 大地(長野高専)
朝倉 太郎(富山大学) 金森 啓宗(富山大学)

今回の全国学生研修会には、北陸信越学生会より4名の参加がありました。研修会では川崎製鉄千葉製鉄所、宇宙開発事業団そして産業技術総合研究所を見学させていただきました。各参加者による詳細な報告はホームページで読むことができます。ぜひ一度ご覧ください。

ベストプレゼンテーション賞

学生会では、第31回学生員卒業研究発表講演会において優秀なプレゼンテーションをされた講演者に対し、ベストプレゼンテーション賞を授与いたしました。受賞されたのは以下の方々です。おめでとうございます。

ベストプレゼンテーション賞受賞者

・渡辺 純 君(金沢工大)・吉藤 慎吾 君(金沢工大)
・唐澤 政弘 君(新潟大工)・三上 浩子さん(金沢大工)
・星 正彦 君(新潟大工)・上坂 智則 君(福井高専)
・松山 真也 君(福井高専)・高田 良紀 君(金沢大工)
・長谷川 純 君(福井大工)・中山 高志 君(長野高専)
・須戸洋太郎 君(金沢工大)・北川 友哉 君(金沢工大)
・中尾 清和 君(金沢工大)・持地 浩行 君(長岡技科大)
・藤田 敏範 君(金沢工大)・大日向大地 君(長野高専)
・新貝 大輔 君(信州大工)・辻村 元一 君(金沢工大)
・今井 恒良 君(金沢工大)・服部 厚史 君(信州大工)
・宮川 太郎 君(金沢工大)・新川 雅也 君(福井大工)

そのほかの支部学生会関連行事報告

- 平成13年度学生会総会及び幹事校会
第1回平成13年7月14日、第2回平成13年12月1日
いずれも金沢工業大学で開催
- 第31回学生員卒業研究発表講演会
平成14年3月7日、講演件数100件、金沢工業大学

支部学生会ホームページ

URL <http://www.jsme.or.jp/hs/gaku.html>

このページに載せきれなかった学生会の活動報告、情報、会員校のホームページへのリンクなどを掲載しています。ぜひ一度ご覧ください。

■第39期(平成13年度)実施の行事一覧■

月日	行事内容	開催地	参加者数
2001年3月14日	第30回学生員卒業研究発表講演会	長野	222名
3月15日	第38期総会・講演会	長野	371
4月19日	特別講演会「最近の電波吸収体の応用と測定方法について」	石川	42
5月25日	特別講演会「福井地震と最近の地震工学、耐震技術」	福井	250
7月24日	特別講演会「構造・機構の最適化」	富山	26
7月27日	特別講演会「電子ビーム描画システム開発物語」	長野	61
9月15日	公開シンポジウム「自然エネルギーの有効利用技術の展望」	長野	84
9月28日	特別講演会・見学会「会社紹介と物づくりについて/IT革命とロボット技術について」	富山	55
10月30日	特別講演会「最近の金属系材料の展望-超強力鋼の破壊強度と形状記憶合金を例にとりて-」	石川	102
11月16日	特別講演会「新しい金型による加工と将来の加工」	福井	170
11月26日	技術講演会・見学会「ハーモニックドライブTMの最新技術動向」	長野	11
11月30日	特別講演会「トライボロジーの現状と将来」	新潟	60
12月13日	特別講演会「複合材料に関する最新技術の展開とその応用」	石川	71
12月14日	特別講演会「製品設計へのCAE活用の最先端」	石川	46
2002年1月11日	特別講演会「技術者・企業にとっての知的所有権」	新潟	95

■第40期(平成14年度)行事予定■

月日	行事内容	会場
2002年3月7日	第31回学生員卒業研究発表講演会	金沢工業大学
3月8日	第39期総会・講演会	金沢工業大学
4月19日	特別講演会「コマツ東洋工場のゼロエミッション活動」	石川県産業展示館
6月28日	特別講演会「自動車関連技術」	長野県工科短期大学校
6月28日	特別講演会「省エネと環境にやさしいモータの現状と将来像」	福井大学工学部
7月16日	特別講演会「日本の鉄鋼業における技術開発の動向」	金沢大学工学部
7月19日	特別講演会「計算力学と技術者認定」	富山県立大学
8月6,7日	公開シンポジウム「環境にやさしい機械技術-近未来型ピークルを考えよう-」	金沢工業大学
9月下旬	特別講演会「ナノテクノロジー あるいはレジャー産業とロボット技術 関連」	新潟地区・新潟大学
9月27日 or 10月4日	特別講演会「技術者倫理(教育)についてあるいは技術者倫理の現状」	長岡技術科学大学 マルチメディアセンター
9月	特別講演会・見学会	富山
10月~11月	特別講演会「吸音材料の特性と応用例(仮) (共催:精密工学会, 材料学会)」	金沢
10月~11月	技術講演会・見学会「ピストンリングに関する最近の課題と技術動向及び見学会(仮)」	帝國ビストリック(株) 長野工場
11月	支部創立40周年記念行事	福井大学工学部
未定	見学会・講演会	(株)PFU(石川)
未定	特別講演会	福井
2003年3月	第32回学生員卒業研究発表講演会/第40期総会・講演会	福井

■第40期支部役員■

担当	氏名	所属
支部長	田中 正隆	信州大学工学部
副支部長(兼富山県幹事)	沖 善成	三協アルミニウム工業(株)
庶務幹事(兼石川県幹事/ニュースレター担当幹事)	放生 明廣	金沢大学工学部
会計幹事(兼石川県幹事)	岩田 佳雄	金沢大学工学部
学生会担当幹事	川谷 亮治	福井大学工学部
長野県幹事	今度 史昭	信州大学工学部
〃	中澤 正明	石川島芝浦機械(株)
新潟県幹事	吉口 日出男	長岡技術科学大学
〃	土田 信男	(株)コロナ
富山県幹事	森 孝男	富山県立大学工学部
石川県幹事	杉田 正雄	(株)コマツ
福井県幹事	小寺 忠	福井大学工学部
〃	宗田 世一	(株)エイチアンドエフ

◇◇第39期総会・第41回商議員会から◇◇

1. 第39期事業報告(別表)・会計報告
2. 第40期商議員及び支部役員(別表)
3. 第40期事業計画(別表)・予算
4. 第6回支部賞贈呈
5. 平成13年度学生員増強功労者表彰伝達
石川工業高等専門学校, 金沢大学工学部, 信州大学繊維学部, 新潟大学工学部, 福井工業高等専門学校

◇◇学生会活動報告から◇◇

1. 第1回幹事校会・親睦会
2001年7月14日 : 金沢工業大学
2. 全国学生研修会
2001年8月1日~3日 : 川崎製鉄研修所(ほか千葉)
3. 第2回幹事校会・親睦会
2001年12月1日 : 金沢工業大学
4. メカライフの世界展実施(別頁)
5. 学生会機関誌「白眉」
支部ニュースレター掲載
6. 第31回学生員卒業研究発表講演会
講演数100件 2002年3月7日 : 金沢工業大学

●編集後記●

ニュースレター第5号をお届けします。今号では、昨夏の全国大会の報告を中心にした各県からの記事、昨年に続く支部内の研究会の記事・宣伝をお送りします。会員の皆様からの忌憚りの無いご意見・ご要望をお知らせ下さい。(伊藤紀男, 岩田佳雄, 新谷真功, 原利昭, 川久保洋一)

※各行事の詳細はその都度、学会誌会告欄および支部ホームページでお知らせしますので、奮ってご参加下さい。

発行所 (社)日本機械学会北陸信越支部

〒920-8667 金沢市小立野2-40-20
金沢大学工学部人間・機械工学科内
TEL&FAX (076)234-4668
E-mail: chiho@t.kanazawa-u.ac.jp
URL: http://www.jsme.or.jp/hs/

発行所 日本機械学会北陸信越支部 支部長 田中 正隆
編集者 北陸信越支部第39期ニュースレター編集委員会

近日開催の支部行事ご案内

特別講演会 「自動車関連技術」

日時：2002年6月28日（金） 13時30分～16時30分
(懇親会：18時終了)

会場：長野県工科短大講堂（上田市下之郷813-8）

講演題目、講師：

13：30～15：00／(1)交通事故調査について
長野県工科短大生産技術科 川上 明

15：00～16：30／(2)フィルタでの環境対応について
日本濾過器(株) 代表取締役社長 中山 晋雄
取締役開発管理部長 勝島 豊司

参加費：講演聴講…無料， 懇親会…1000円
(懇親会に参加戴けます場合には、FaxまたはEmailでご連絡
ください。)

問合せ先：〒386-1211上田市下之郷813-8

長野県工科短大生産技術科 川上 明

TEL・FAX: 0268-39-1123

E-mail: kawakami@pit-nagano.ac.jp

特別講演会

「省エネと環境にやさしいモータの現状と将来像」

日時：2002年6月28日（金） 13：10～16：00

会場：福井大学工学部 共大5講義室（福井市文京3-9-1）

講演題目、講師：

13：10～13：15／(1)挨拶
司会 福井大学工学部 小寺 忠

13：15～14：15／(2)モータの現状と将来像について
松下電器産業(株) モータ社 開発グループ 河本 松雄

14：15～14：25／(3)質疑応答

14：25～15：25／(4)エアコンにおけるモータ・インバータ最新
省エネ技術
東芝キャリア(株) エレクトロニクス開発部 金澤 秀俊

15：25～15：35／(5)質疑応答

15：35～15：55／(6)総合討論

15：55～16：00／(7)挨拶

定員：150名

参加費：無料

申込方法：

「特別講演会参加申込み」と題記し、(1)氏名、(2)勤務先・
所属部課名・役職名、(3)連絡先（郵便番号・住所・電話
番号FAX番号・E-mailアドレス）、(4)会員資格 を明記の
上、FAXまたはE-mailにて下記までお申込み下さい。

申込先・問い合わせ先

〒910-8507 福井市文京3-9-1

福井大学工学部 機械工学科 小寺 忠

TEL：0776-27-8538 / FAX：0776-27-8748 (学科事務室)

E-mail：kotera@mech.fukui-u.ac.jp

特別講演会

「日本の鉄鋼業における技術開発の動向」

(共催：○日本機械学会北陸信越支部/日本材料学会北陸信
越支部/精密工学会北陸信越支部(○印は幹事学会))

日時：2002年7月16日（火） 13：00～16：30

会場：金沢大学工学部 秀峯会館（金沢市小立野2-40-20）

講演概要：

- (1) 日本鉄鋼業における技術開発の方向と新たな挑戦
- (2) 21世紀の圧延技術の展望
- (3) 21世紀鉄鋼業の展開方向とそれを先導する技術者への期待

講師：新日本製鐵(株) フェロー（常務取締役待遇）

菊間 敏夫

参加費：無料

問合せ先：〒920-8667 金沢市小立野2-40-20

金沢大学工学部 人間・機械工学科 岩田 佳雄

TEL：076-234-4672 / FAX：076-234-4676

E-mail：iwata@t.kanazawa-u.ac.jp

※行事詳細等は学会誌会告欄または支部ホームページをご
覧下さい。

拠点代表委員について

支部では下記の方々を「拠点代表委員」として、各県地域の会員の声の集約、会員の所属異動連絡、支部および本会との諸
連絡などを担当しております。支部あるいは本会に対するご意見・ご要望、所属異動連絡等は、お近くの下記委員または支部
事務局宛ご連絡下さい。

県名	所 属	氏 名	県名	所 属	氏 名	
長野	石川島芝浦機械(株) トラクタ事業部	中澤 正明	富山	富山県立大学工学部 機械システム工学科	春山 義夫	
	(株)三協精機製作所 海外第3技術部	小野沢 泉		富山大学工学部 機械知能システム工学科	塩澤 和章	
	信州大学工学部 環境機能工学科	池田 敏彦		(株)日平トヤマ 富山工場	日向 武彦	
	信州大学繊維学部 機能機械学科	河村 隆		北陸電力(株) 技術開発研究所	石田 哲義	
	セイコーエプソン(株) 広丘事業所	澤田 隆治		YKKエンジニアリング(株)	桑名 善吾	
	長野県工業試験場 製品科学部	島田 享久		金沢工業大学工学部 機械系	加藤 秀治	
	長野工業高等専門学校 電子制御工学科	岸 佐年		金沢工業大学工学部 機械・物質系	土方 明幹	
新潟	(株)コロナ 技術本部	土田 信男	石川	金沢大学工学部 機能機械工学科	木村 繁男	
	上越教育大学 学校教育学部	黎 子椰		金沢大学工学部 人間・機械工学科	瀧本 昭	
	(株)ソガミプレジジョン	板井 清美		(株)コマツ 開発本部 パワートレイン開発セク	久世 隆	
	長岡技術科学大学工学部 機械系	増田 渉		澁谷工業(株) 技術本部	中 俊明	
	新潟工科大学 機械制御システム工学科	中嶋 新一		福井	熊原子力安全システム研究所	八木 良恵
	新潟大学工学部 機械システム工学科	原 利昭			東工シャッター(株)	佐々木知也
	(株)新潟鉄工所 新潟精機工場	山田 正直			福井工業高等専門学校 機械工学科	藤田 克志
(株)日立製作所 産業機器事業部	山田 幸英	福井工業大学工学部 機械工学科	羽木 秀樹			
富山	三協アルミニウム工業(株) 技術開発本部	沖 善成	福井大学工学部 機械工学科	古村 義彰		
	(株)タナカエンジニアリング	高木 曹昭				